

第39回法人会全国大会群馬大会の報告

令和5年10月18日（水）第39回法人会全国大会群馬大会が高崎市高崎芸術劇場で開催され、約1,400名が参加しました。

第1部では「好機到来」と題して日本通信株式会社の代表取締役社長で公立学校法人前橋工科大学理事長の福田尚久氏から記念講演がありました。同氏から現在は、「卸・小売の時代からメーカーの時代へ」「大型店の時代から小企業の時代へ」という流れであり、日本にも成長のチャンスは大いにあること、またアップルでスティーブ・ジョブズ氏と仕事をした時のエピソードについて、自らの経験を基に話されました。大学理事長の立場からも、1クラス16人制を推奨するなど教育の重要性についても持論を展開されました。

第2部の大会式典では、一般社団法人群馬県法人会連合会の齋藤一雄会長の開会の辞、主催者を代表しての小林栄三全法連会長挨拶、住澤整国税庁長官、山本一太群馬県知事ほか来賓の祝辞、会員増強表彰等の表彰式に続いて飯野光彦税制委員長から令和6年度税制改正に関する提言の要旨が発表されました。

提言要旨は、財政健全化は国家的課題であり本格的な歳出・歳入の一体改革を進めることが重要であること。

社会保障制度においては、現状の「中福祉・低負担」という不均衡を「中福祉・中負担」という正常な姿に改革するには、適正な「負担」を確保するとともに給付を「重点化・効率化」により可能な限り抑制すること。

消費税については、軽減税率制度とインボイス制度について、国民や事業者への影響、低所得者対策の効果等を検証し、問題があれば制度の是非を含めて見直しが必要であること。

中小企業の技術革新など経済活性化に資する税制措置の拡充を図ること。

中小企業にとって円滑な事業承継に資するため事業用資産を一般資産と切り離した本格的な事業承継税制を創設する必要があること等が柱となっています。

続いて、今年の全国青年の集いにおける発表で最優秀賞を受賞した鹿児島法人会青年部会による租税教育活動の報告があり、最後は野坂文雄筆頭副会長の税制改正に関する提言の実現を強く求める大会宣言で締めくくられました。

第3部の懇親会は、会場をホテルメトロポリタン高崎に移して、4年ぶりに従来の立食形式となりました。郷土料理や美味しい地酒が振舞われ、大いに舌鼓を打ちました。来年の鹿児島大会での再会を約して散会しました。

以上